

# あだたら

発行所  
本松市木ノ根坂  
あだたら山の会  
編集 部

十月十八日(金)

十月山行・栗駒山

「紅葉を満喫しよう」

報告 □□□□



栗駒山山頂、12時50分

会員七名、非会員の□□を六時出発。途中菅生イン□□夫人一名の八名で、二ターで集合し、朝食を摂り、台の車に分乗して、二本松 九時五十分栗駒山の登山

### 九月から十月にかけての

### 大雨による被害を受けた方に

### 心からの御見舞を申し上げます

あだたら山の会 会員一同

●編集部連絡先  
二本松市木ノ根坂1-515  
0243(22) 4245  
渡辺 正

口、「いわかがみ平」に着いて、東栗駒山コースで登山開始。朝から霧が掛かって、台風十九号の災害から、沢コースを含む、東栗駒山コースが、大丈夫かどうか、確認を取り、全員元氣一杯で登山開始。予定した時間より三十分遅れ、十一時五十分東栗駒山山頂へ到着。今まで何度か登っているが、なぜか山頂が遠く感じ、足場も滑り大変でした。十月中旬ということもあるが、寒さと霧に包まれ、我慢我慢の山行となりました。天候の崩れが早まり、急ぎ山行を進め、十二時五十分栗駒山山頂へ。十五分ごろ休憩と写真を撮り急ぎ下山開始。山頂から十分程下山し、風が和らぐ。木々に隠れ二十分程で温かいスूप、コーヒ、おにぎりで体を温め、気合を入れ、栗駒山中央コースで下山しました。霧雨に濡れた石畳に、疲れと膝への負担により、皆から、「こ



東栗駒山山頂、11時50分

んなに歩きにくい登山道は楽しくない」と口々に。十四時三十分「いわかがみ平」へ予定より一時間遅れて登山口へ戻りました。登山前に駐車場で盛んに餌をねだっていた捨て猫がどうなっていたのか配して係員に聞くが「わからない」と。着替えをして、二台に別れ菅生インターでコーヒータイム。精算をし、十九時二本松へ戻りました。平日の事もあり、登山者は二十名程で駐車場の紅葉シーズンの割にはガラガラでした。登山口までの登山道はまだ紅葉が美しく見頃で、満喫しました。登山道はもう紅葉が終わりにかかり、秋から冬への移り変わりを感じました。八名全員が元気に山行できたことは大収穫でした。山友はいいなと、改めて思いました。ご苦労様でした。

十月二十日(日)

## 五葉松平登山道整備作業

報告 編集部



くっきり表れた五葉松平登山道下部、11月4日撮影

この登山道は、奥岳登山口からロープウェイを利用せず、薬師岳山頂に至る登山道で、溶岩台地の「末端崖」を登る。山頂方向や、二本松・福島市街の眺めが抜群。紅葉のこの時期は利用者が多い。特に薬師岳直下には、山頂・勢至平方面の紅葉展望の最適地があり、当日もカメラを構えている人が沢山いた。

二十日には会員六名が刈払機・手鋸・スコップや土嚢袋を持参し、通過支障木の刈払い、泥濘地への土嚢袋設置や簡単な迂回路設置を行った。紅葉シーズンの日曜日とあって、利用者はひっきりなしに通過。作業している会員に、泥濘箇所での通過困難を訴える人もいたし、感謝の言葉掛ける人も多かった。



観光客で一杯の登山口に下山、15時24分

作業を終えて奥岳登山口に下山した会員の前に、一頭のニホンカモシカが現れた。紅葉見物客の溢れる奥岳だったが気付く人は少なかったようだ。登山道整備に「感謝」して現れてくれたのかもしれない。すぐ隠れてしまつて写真は撮れなかった、残念。  
(追加)十一月四日(月)、篠竹束を仙女平分岐まで上げるのにロープウェイに乗った。何気なく五葉松平登山道方面見て居たら、十一月一日と併せた、作業の結果がくっきりと「登山道」を見せていた。帰りのロープウェイからしっかり撮影した。

十月六日(日)  
**福島市民体育祭登山の集い「鬼面山」**  
 報告 編集部



鬼面山山頂、10時3分

【参加者】□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□(五名)  
 【行動】今年の福島市民体育祭「登山の集い」は安達太良連峰の北端、鬼面山だった。  
 集合は八時半に、野地温泉ホテル駐車場の空き地。雨振りだったが、参加者みんな雨具を着用して

ホテル脇の登山道から九時登山開始。「木の根坂」濡れた木の根に乗ると滑り易く要注意。旧土湯峠で小休止、その後は、雨降りでもあるし、何も見えないので休み無しで登山。ほぼ一時間、午前十時には山頂に着いた。小振りにはなかったものの視界は効かない。ただ手近の灌木の紅葉は見事



笹刈、□□□□



笹刈、□□□□



ウスユキソウ の種子

で、足下の「ウスユキソウ」はしっかり種を付けていた。十一時半には駐車場所まで下山、解散となった。当会のメンバーは道の駅土湯に集合、駐車場所まで乗り合わせて往復した。

十一月一日(金)  
**薬師尾根登山道整備**  
 報告 編集部



解散前にレストハウスで集合写真 □□□さん先に下山

草刈機を使って登山道整備作業(笹刈)を実施した。例年登山客の少ない、ロープウェイ運行停止に最も近い平日に行っている。今年一日だったが安達太良山は強風が吹き荒れ、ロープウェイは運行停止。参加者

は草刈機持参の会員も含めて五葉松平登山道を上った。薬師岳の上には、四台の草刈機が上がり、仙女平分岐下迄、登山道両側に張り出した笹の刈払いを行った。また積雪期登山時の道標用の篠竹も薬師岳迄配置



9時28分、今から 五葉松平を登る

した。昼食は強風のため山では無理で下山してレストハウス内で摂らして戴いた。笹は、秋に刈ると翌年の伸びが抑えられる、来年の薬師尾根は、笹に邪魔されることの少ない気分の良い登山が楽しめそうだ。会員十二名、会員他二名の合計十四名が参加した。▼昼食後、くろがね小屋で今年の整備作業の打ち上げを行った、参加者は四名と少数だったが、小屋からは打ち上げを祝って青梅市の清酒「澤乃井」の三百、岩梅を戴いた、何かの機会に持参します。帰りは全員で勢至平を下山。途中レンゲツツジの名所に立ち寄り、視界を遮っていた赤松一株



笹刈、□□□□

を処分した。▼ロープウェイ駅に預けておいた篠竹はロープウェイ山頂駅迄上げて貰っていた。四日に訪問して、四束が一つにまとめられていたので、仙女平分岐までの四カ所に分けて配置して置いた。

十月二十九日(火)  
紅葉を楽しむ  
朝日連峰・鳥原小屋泊まり

報告 □□□□



鳥原小屋

十月二十九日(火)二本松六時出発、米沢道の駅での朝食、古寺鉱泉登山口へ(十時)、昨年は登山口までの道路が時間通行止めで朝日鉱泉からの入山だった。今年が入る事が出来たが、駐車場が様変わりしていた。元の駐車場には二階建ての建物があり、駐車場も一〇〇台くらい入れる大きさとなっていた。駐車場には五く六台の車がいた。工事中の人の話によると、建物は一週間前に落成し

オープン。来春になる、二十一人位の泊まるスペースがあるとの事。名称は「大江町朝日連峰古寺案内センター」、町経営みたい。朝日連峰の拠点にする考えみたいだ。下山時には建物の窓は「雪囲い」され「トイレ」もなく、朝日連峰は冬と十一月に入ると板が外され渡ることが出来なくなる。古寺鉱泉に入山届けを出し十時半出発、鉱泉の発電小屋の前を通り急登。今が

盛りりの紅葉を見る余裕など無い登山道とにらめっこに登りが続く。休憩を取りながらの登り、紅葉を楽しむ。十一時半、昼食休憩。まだ標高は七〇〇メートル。綺麗な紅葉を楽しむ。畑場峰(一〇〇〇)休憩。(おなけい)登山口から合流点十二時四十五分)。田代清水付近からは木々の間から月山や古寺山・小朝日岳・大朝日岳、前には鳥原山などが見える事が出来る。今までは木の葉に遮られ見る事が出来なかった。コース最後の登り、疲れもピーク、十五路近い荷物も今の私にはキツイ。縦走コース合流点(二時四十分)。ここからは木道歩き、濡れた木道、疲れも重なりペースが上がらない。三時前無事、鳥原小屋。管理人が十月八日に下山。私達だけの静かな夜となる。夕食を済ませ七時半には寝袋の中、長い夜となる。

十月三十日、朝六時起床、八時三十分小屋出発、鳥原山(一四二九)米。予定していたが時々風も強くなり、また雲の流れも速く、あきらめ下山となる。時間も余裕があり、登りではあまり楽しむ事の出来なかった紅葉を楽しむながら下山。古寺登山口へ十二時下山。車窓から紅葉、大江沢トンネル手前では車から降り、山々の紅葉を楽しみ、柳川温泉で風呂に入り、無事六時帰宅する。



古寺案内センター

当日は、前日夜からの雨が午前中まで残っていたが午後からは止む予定だった。十二時過ぎにバスが到着、県岳連役員とは顔なじみの人もいて、あちこちで「久しぶり」との挨拶も。どちらかというと、年配の人が多し。霧雨の中で開始式、ロープウェイで山頂駅、水溜まりの中を登山、午後二時半には山頂到着写真撮



安達太良山頂、14時35分

十月十九日(土)  
川崎市・福島県  
震災復興支援スポート交流事業  
安達太良山・霊山  
川崎市山岳協会  
創立五十五周年記念登山  
報告 編集部

影。視界は殆ど無かった。ロープウェイ営業時間もなかったので、さっさと下山した。協会の会員と、ガイドした県山岳連盟の役員は、翌日の霊山に備えて、東館泊まり、私は翌日五葉松平だ、登山道整備なのでここが別れた。お土産として「文明堂のカステラ」一箱戴いた。夜は「復興支援」で大盛り上がりだったことだろう。

▼この山行で、県山岳連盟の□□□□□□から感謝されたことが二つ。  
下山時、年配の方が、途中から遅れだした。先頭とは三十分以上離れてしまった。県岳連が二人付いて居たが、ロープウェイの運行最終に、間に合わないかも知れないと言った事になった。無線でロープウェイの職員に話して、待っていて貰えるようにしてくれと言ってきた。事務局が私の所に来て話してくれないかと言う。山頂駅の職員全部顔見知り、間に合わないかも」と話したら、渋い顔だったが了解してくれた。ただ山頂駅の後始末があるから、当事者以外は待ってないで皆な下がってくれ、と言う話。下で見て



出発前打合せ、12時36分

居たら、最終の時間には間に合ったようで、他の登山客と一緒に下ってきた。  
翌日、事務局からメールがあり、昨日のロープウェイの件の御礼と、川崎市山岳協会の□□□□さんから問い合わせがあり、二本松出身の□□□□さんという方が以前川崎のヨチヨチ山岳会にいて、二本松に帰郷されたが、御存知かと言う話だった。当然だが心当たりがあり、古い名簿で電話番号を確認し、電話差し上げてみた。その通りのようだった。□□□□さんの了解って住所と電話番号、□□□□さんへ連絡してくれるようメールに返事した。□□□□さんと久しぶりに話したが声は元の儘だったし、まだ会社員現役の世代だ。